

チケット

[参加方法]

一部予約不要のプログラムを除き、ご予約は、E-mail、または、WEBサイトの予約フォームよりお申込みください。

E-mailの場合、1. プログラム名 | 2. 日時 | 3. 人数 | 4. 氏名 | 5. 連絡先 (E-mail, 電話番号) | をご記入の上、お申込みください。

[申込先:WWFes事務局]

E-mail | bodyartslab@gmail.com (チケット申込み専用アドレス)

予約フォーム | <http://bodyartslabo.com/wwfes2012/festival/form>

- 一部予約不要のプログラムを除き、当日受付を行なう予定ですが、事前のご予約をおすすめします。事務局からの返信をもってご予約の完了となります。
- お支払いは、イベント当日受付でのご清算となります。
- 原則として、お申込み後のキャンセルは受け付けておりません。やむをえない事情でキャンセルされる場合は、事前のご連絡をお願いします。

会場

森下スタジオ | **新館Sスタジオ** | **Aスタジオ** | **Cスタジオ**

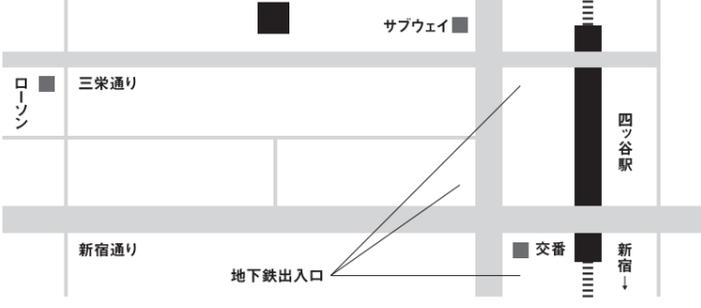


東京都江東区森下3-5-6

- 地下鉄都営新宿線・都営大江戸線「森下駅」A6出口より徒歩5分

GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE

GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE



東京都新宿区四谷1-5 近畿大学国際人文科学研究所

東京コミュニティカレッジ 四谷アート・ステュディオム1F

ギャラリー・オブジェクティブ・コレラティブ

- 「四ッ谷駅」JR中央線四ッ谷口より徒歩3分、東京メトロ南北線2番出口より徒歩3分、東京メトロ丸ノ内線赤坂口より徒歩5分



トラジャル・ハレル

Trajal Harell

イェール大学卒業後、振付家、キュレーター、編集者、オーガナイザーとして、ニューヨーク/ヨーロッパを拠点に精力的に活動を続けている。現在、ニューヨークのダンス機関、ムーブメントリサーチの特別プロジェクトディレクター、及び同機関の発行紙『ムーブメントリサーチ・ジャーナル』のチーフ編集者を務める。アーティストによるキュレーションやエデュケーションプログラムの提案を推進し、ニューヨークのダンスの現場改革に貢献。

振付作品は、ニューヨークのDance Theater Workshop、The Kitchen、P.S.122の他にフランス、オランダ、ベルギー、オーストリア、ドイツ、ポーランドなどヨーロッパの主要な劇場、インバルスタンツ、アヴィニオン・ダンスフェスティバル等のフェスティバルで上演。また、現代アートの枠組みでThe New Museum (ニューヨーク)、Fondation Cartier (パリ) など美術館での作品発表も精力的に展開している。2010年には Dansapce Projectで6週間のパフォーマンス・プラットフォームのキュレーターに任命され、その中に、若手アーティスト育成プログラムThe Adventureを取り入れ、イニシアチブをとる。

<http://betatrajal.org>

*トラジャル・ハレルは、公益財団法人セゾン文化財団の2011年度「レジデンス・イン・森下スタジオ ヴィジティング・フェロー」として招聘されます。5月11日(金)に森下スタジオにてパブリックトークを開催予定です。

Whenever Wherever Festival 2012 | Part 1 スタッフ

プログラム・ディレクター:山崎広太

プログラム・コーディネーター:佐藤美紀

プログラム・コーディネーター/エディター/宣伝美術:印牧雅子

国際ナショナルプログラム・コーディネーター:西村未奈、生島翔

国際ナショナルプログラム・アシスタント:三石祐子

インターン:川田夏実、櫻井ことの、齋藤コン、南千尋、佐々木智子、北條知子、下田伊吹、橋本玲美

宣伝美術協力:中山雄一朗



デイビッド・ベルグ

David Bergé

主にヨーロッパで活躍する、振付、写真、パフォーマンスの境界を活動テリトリーとするベルギー在住のアーティスト。写真展の他に、パフォーマンス・インスタレーションや振付を巻き込んだ写真投影プロジェクトなどをウィーンのTanz-Quartier、ブリュッセルのWorkSpaceやベルリンのNETWERKなどを中心に発表している。近年では、DD Dorvillier、Trajal Harrell、Mark Canrunxtなど振付家とのコラボレーションが注目されている。

<http://www.papa-razzi.be>

後援:Flemish Authorities

マルテン・シュパンベルグ

Mårten Spångberg [予定]

スウェーデン、ストックホルム在住の振付家。実験的な試みや多様な形式・表現方法を取り入れた創作プロセスにより、振付という領域の拡張に取り組んでいる。1994年よりパフォーマーとして活動を始め、1999年よりソロからグループ作品、ウィリアム・フォーサイス/フランクフルトバレエ団などへの振付を含む作品発表を国内外で精力的に行なう。

ストックホルム・バナシアフェスティバル(1996ー2005)、Body Currency/ウィーンフェスティバル(1998)、リスボン・ケルケンキアン財団CAPITALS、フランクフルト・国際ナショナル・サマー・アカデミー(2002, 2004)など国際フェスティバルや機関のディレクターを務める。2006年には、ネットワーク・オーガニゼーションINPEXを立ち上げ、出版プロジェクト"The Swedish Dance History"を監修。雑誌「Aftonbladet」『Dagens Nyheter』にダンス批評家として寄稿(1990ー97)し、2011年に初の著書『Spangbergianism』を出版。

人材育成にも貢献しており、過去には、P.A.R.T.S(ベルギー)、Ex.e.r.ce(フランス)、インバルスタンツ(オーストリア)、ストックホルム演劇大学でダンス理論および実技の講師を勤める。2008年、ストックホルムダンス大学振付科のMAプログラム(修士課程)ディレクターに就任。

<http://martenspangberg.org>

5.15—6.6 Festival | 7.22—8.5 Education

Body Arts Laboratory | <http://bodyartslabo.com/wwfes2012>

Whenever Wherever Festival 2012

Part 1 | **Festival***

公演・イベント

5月15日[火]ー6月6日[水]

Part 2 | **Education**

クラス・ワークショップ

7月22日[日]ー8月5日[日](予定)

会場:森下スタジオ

(一部プログラムを除く)

企画/主催:

ボディ・アーツ・ラボラトリー

助成:

公益財団法人セゾン文化財団・

東京都芸術文化発信事業助成(申請中)

協力:

近畿大学国際人文科学研究所

四谷アート・ステュディオム

スタジオ アーキタンツ

お問い合わせ:

ボディ・アーツ・ラボラトリー

bal@bodyartslabo.com

090-4069-7719

<http://bodyartslabo.com>

[twitter@bodyartslab](https://twitter.com/bodyartslab)

[関連情報]

- BALリサーチ | インタビュー/批評/レポート

<http://bodyartslabo.com/research>

*一部エデュケーション・プログラムあり。

Whenever Wherever Festival 2012

アーティストが主導するダンス・オーガニゼーションの提案としてはじまったボディ・アーツ・ラボラトリー(BAL)。いわば、その運動体としての形態(プラットフォーム)を試行するかたちで毎年行ってきたフェスティバル、Whenever Wherever Festival(WWFes、ウェン・ウェア・フェス)が4年目を迎えました。

WWFesは舞台表現に限定されない身体芸術をめぐる環境(インフラストラクチャー)にはたらきかけ、対話の場を開き、その深化を目ざして、創発的なコミュニティのあり方を描く実験を重ねてきました。そのなかで、アーティストや研究者ら多くの実践者との協働が実現しました。

そうした歩みを踏まえて、WWFes 2012は、公演・イベントを中心とするPart 1(5月ー6月)と、クラス・ワークショップ(エデュケーション[教育]・プログラム)が中心のPart 2(7月ー8月)の二期に分けて開催します。

- Part 1**では、アーティストによるオーガナイズに共振する、海外からの3アーティスト(予定)の日本でのリサーチ活動をWWFesに接続し、紹介する初めてのプログラムを実施します。そのほか、BALの提案から発するラウンドテーブル、そして、世代・ジャンル間を横断するエクステンジ/コミュニケーション・プログラムを特徴とするパフォーマンスなど、計12のイベントを行ないます。

Part 2のエデュケーション・プログラムは、オハッド・フィショフ(パトシェバ舞踊団)ほか多彩な講師を迎えて開講します。エデュケーションにおいても、WWFesは、アーティストが自らの活動やその技法について省察する土壌を育み、創作に伴うコミュニケーションをサポートすることを指針とします。

(詳細は決定次第、WEBサイトなどで発表します)

ラウンドテーブル |

On The Boat

身体芸術をめぐる環境への現在の認識を率直に交換する場として、キュレーター、オーガナイザー、批評家、振付家、美術家など多くの専門家が集い、対話する会議を行ないます。何にフォーカスしてダンスまたはアートをしているのか?——BALの提案から発し、インディビジュアルに社会の一員として活動するためのヴィジョンを浮かび上がらせます。

[コンセプト関連テキスト]

- Whenever Wherever Festival

3年間を振り返って | 山崎広太

<http://bodyartslabo.com/about/history/wwfes>

5.15 tue <p>12:00—18:00</p>	森下スタジオ S　5/18[金]のみスタジオ A	Research Workshop
5.16 wed <p>12:00—18:00</p>	アドベンチャー ・通し受講のみ受付 <p>講師：トラジャル・ハレル(振付家、キュレーター、『ムーブメントリサーチ・ジャーナル』編集長) +デイビッド・ベルグ(振付、写真、パフォーマンス)</p> —	
5.18 fri <p>12:00—18:00</p>	振付概念を鋭利に革新するその前衛性でアメリカ・ヨーロッパで注目を集めるトラジャル・ハレルと写真アーティスト、デイビッド・ベルグによるワークショップ。二人のリードのもと、リサーチに基づき徹底討論、交流・実践ワークショップとして参加者は最終日に身体パフォーマンスを伴う発表を行ない、ダンス/パフォーマンスを思考する画期的なプログラム。	
5.20 sun <p>12:00—16:00</p>	— <p>・対象:ダンサー、振付家、ビジュアルアーティスト(美術家)、ジャーナリスト(プロもしくは志望者)</p> <p>・応募方法:以下の2点を応募先までE-mailにてにてお送りください。ご応募の際、電話番号をお書き添えください。選考後に事務局よりE-mailでご連絡いたします。</p> CV(活動歴)【日本語・英語】 参加志望動機【日本語400字以内】 <p>・締切:2012年4月30日【月】　・応募先:bodyartslab@gmail.com</p>	

5.17 thu <p>12:00—20:00</p> <p>無料(予約不要)</p>	Gallery Objective Correlative	Performance
	The Ambien Piece (Tickle the Sleeping Giant stage #10) <p>作:トラジャル・ハレル(デイビッド・ベルグとの共同制作)</p> <p>パフォーマンス:デイビッド・ベルグ、トラジャル・ハレル</p> —	
	パブリック空間における振付/プレゼンテーション形式のラディカルな再定義	Photo by David Bergé
	《The Ambien Piece(睡眠薬の作品)》は、パブリックな場で発展・拡張していくストラクチャーの提示というコンセプトのもと、ダンサーが睡眠薬を飲み、眠り、ステージ上で目を覚ますというパフォーマンス。振付における意識的/無意識的な動きの区別、存在・演劇性・スペクタクル性の有無を探索する試みであるが、WWFesでは、東京での1回限りのパフォーマンスとして新たにStage#10を発表する。	

5.19 sat <p>18:00</p> <p>¥1,000</p>	森下スタジオ A　2回公演 各回定員限定25名	Performance
	Twenty Looks or Paris is Burning at The Judson Church (XS) <p>振付・出演:トラジャル・ハレル</p> —	
	ダンスあるいはモードの考察 <p>クリティカルな実験シリーズを日本初上演</p>	Photo by Antoine Tempé
	4月から5月にかけて、オランダ"Springdance Festival"を皮切りに、ニューヨーク、東京、フランスの"Festival Nouvelles"、CNDCアンジェでシリーズが上演される話題作	
	60年代のポスト・モダンダンスと、同時代に主に黒人のゲイコミュニティで起きたヴォーギングの現象をパラレルにパフォーマンスで考察する実験的シリーズの一つ。(XS)は、(XL)までである5つのサイズのなかで、観客との親密さを追求した最小サイズであり、シリーズの最初に位置づけられる。	

5.20 sun <p>17:00</p> <p>無料</p> <p>アフタートークあり</p>	森下スタジオ S	Performance
	トラジャル・ハレル+デイビッド・ベルグ アドベンチャー発表 <p>出演:ワークショップ受講生</p> —	
	ワークショップ生による《The Ambien Piece(睡眠薬の作品)》再構築バージョンのプレゼンテーションを予定。	

5.25 fri <p>18:30</p> <p>¥1,000</p>	森下スタジオ S	Performance
	ノーテーションシリーズI <p>出演:実験音楽とシアターのためのアンサンブル(パフォーマンスグループ)</p> <p>[井上美香、久保田翠、河野聡子、北條知子 ほか予定]、川染喜弘(sound/performance)</p> <p>演目:《A Few Silence》G. Douglas Barrett (2008)、《Lizard Music》David Toop (1972)、川染喜弘単独ライブ</p> —	
	スコアとパフォーマンスの関係性を組みかえ、新たな回路を繋ぐ作品を上演する。演奏者にその場で記譜させる《A Few Silence》は、作曲主体を二重化し、パフォーマンスの位置づけをもずらす。川染喜弘はスコアを演奏によって随時書き換え/加える。(キュレーター:北條知子)	

20:00 <p>¥1,000</p>	ノーテーションシリーズII―「病める舞姫」テキストによる作品 <p>出演:田辺知美(舞踏家)、川口隆夫(ダンサー/パフォーマンス)</p> —	
	舞踏の創始者、土方巽(1928―86)の著書『病める舞姫』をテキストに、言語感覚と身体表現との関係、辺境における身体などをそれぞれの解釈で浮かび上がらせる。『病める舞姫』をノーテーション(舞踊譜)にすることで、舞踏のメカニズムの普遍性を探る。(キュレーター:田辺知美)	

5.26 sat <p>13:00—17:30</p> <p>ドネーション(寄付制)</p>	森下スタジオ S	Roundtable
	ラウンドテーブル On The Boat <p>出演:武田知也(フェスティバル/トーキョー制作統括)</p> <p>田坂博子(恵比寿映像祭キュレーター、東京都写真美術館学芸員)、田村友一郎(写真・映像)</p> <p>手塚夏子(振付家)、武藤大祐(ダンス批評家)、山崎広太(振付家) ほか予定</p> —	
	キュレーター、オーガナイザー、批評家、振付家、美術家などが対話し、身体芸術をめぐる環境への現在の認識を交換する会議。何にフォーカスしてダンスまたはアートをしているのか?——インディビジュアルに社会の一員として活動するためのヴィジョンを写しだす貴重なセッション。	

* 関連企画として、5/11[金]19:00より森下スタジオにて、トラジャル・ハレルのパブリックトークが開催予定です。
* 以上のほか、マルテン・シュパンベルグのプログラムを開催予定です。詳細はWEBサイトで発表します。
* プログラムの内容は予告なく変更される場合がありますので、ご了承ください。

5.27 sun <p>15:00</p> <p>¥1,500(一般)</p> <p>¥1,000(学生)</p>	森下スタジオ S	Performance
	ダンスヒストリープロジェクト 公演+トーク <p>ケイタケイ・ソロダンス</p> <p>《LIGHT, Part 8》(1974年初演) LIGHT, Part 34より《若葉の踊り》(2011年初演)</p> <p>演出・振付・衣装・出演:ケイタケイ(舞踊家、振付家)</p> <p>トーク聞き手:長谷川六(ダンスワーク編集長、ダンサー)</p> —	
	現在も活躍し、長年ダンスに貢献する振付家の辿った道をリサーチすることは、必然的にダンスの潮流を振りおこし、これからのアーティストに確かなる指針を与えるに違いない。1970年代のダンスの歴史考察と、同時代に活躍したケイタケイによる公演を行なう。	

5.29 tue <p>14:00</p> <p>無料(予約不要)</p>	渋谷界限　＊詳細はWEBサイトで発表します。	Performance
	invisible site specific <p>出演:有志パフォーマンス</p> —	
	都市における無名性の身体を改めて凝視することによって、都市そのものが劇場化する経験を、都市の再発見へと結ぶ。そこにはパフォーマンスの本来持っている祝祭性はまったくない。	

5.29 tue <p>5.30 wed</p> <p>19:00</p> <p>¥1,000</p>	森下スタジオ S	Performance
	ドキュメンテーション #4:パレスチナ <p>コンセプト、デザイン、振付:チュウマヨシコ(ダンサー・振付家、スクール・オブ・ハードノックス芸術監督)</p> <p>写真:ロバート・フランド パフォーマー:チュウマヨシコ、西村未奈 ほか</p> <p>映像/制作:大石宏樹 協力:Root Culture</p> —	

《パレスチナ PALESTINE》はラマッラー Ramallah(パレスチナ)への3回の訪問を通してヨシコチュウマが経験したことを、写真、ダンス、ビデオなどのメディアを同時多発的に組み合わせて行なうドキュメンテーションである。5月初めにはニューヨークのLaMaMa劇場で行なわれる。危機的な情勢が続く中東へ日本人として足を運び続けるヨシコチュウマの作品は世界へ発信するメッセージである。

6.2 sat <p>17:00</p> <p>¥500</p>	森下スタジオ C	Performance
	スタジオラポー 新人振付家育成プログラム <p>振付家:山田歩・唐鎌将仁</p> <p>キュレーター:大橋可也(振付家/大橋可也&ダンサーズ主宰)</p> —	
	先験的な指向をもったこれからのアーティストに振付家としての可能性を与えるプログラム。制作費をサポートされた新人振付家が公演を行なう。キュレーターと、選出された振付家との信頼関係で成り立っており、2009年のWWFes創始以来継続する、BALの中心的プログラム。	

19:00 <p>¥1,000</p>	写真と身体 <p>出演:デイビッド・ベルグ(振付、写真、パフォーマンス)</p> <p>上村なおか(ダンサー・振付家)、西村未奈(ダンサー・振付家)</p> —	
	振付・写真・パフォーマンスの境界を活動テリトリーとするベルギー在住のアーティスト、デイビッド・ベルグと、ダンサー、上村なおか、西村未奈とのコラボレーション。見る/見られる関係とダンスが織りなす時間が写真と身体を新たにフレーミングする。	

6.3 sun <p>18:00</p> <p>¥1,000</p>	森下スタジオ C	Performance
	NOW HERE DANCE <p>出演:平原慎太郎、三石祐子、田上和佳奈、櫻井ことの、鈴木清貴、JOU、渡邊絵理</p> <p>石和田尚子、木野彩子、山崎麻衣子、菊池尚子、山田茂樹、石山優太、富士奈津子</p> <p>鎌倉道彦、新宅一平 ほか</p> —	
	国内、海外で活躍しているダンサーが一斉に集まり、インプロビゼーションのスコアを使った一度限りの公演。ダンスの爆発的な浸透力がよび醒まされる、フェスティバルを彩る恒例のコミュニケーション・プログラム。	

19:30 <p>¥1,000</p> <p>終演後、懇親会あり</p>	rendance 世代間の対話 <p>出演:花輪洋治、アキオキムラ、林浩平、石和田尚子、木野彩子、武藤容子、藤里照子</p> <p>幸内未帆、JOU、蔭山けい子、京極明彦、河村美雪、熊谷乃理子、堀江進司、中嶋一彦</p> <p>武元賀寿子、鯨井謙太郎、柴一平、田中いづみ ほか</p> —	
	長年ダンスに貢献してきた方、これからの若いダンサー、振付家、舞台関係者など世代を超えたダンス関係者が一堂に会し、言葉とダンスを紡ぐ公演。リアルと幻想が交差しながら楽しくユーモアな雰囲気醸し出すフェスティバル恒例の企画。	

6.6 wed <p>19:00</p> <p>無料</p>	森下スタジオ C	Performance
	映画と身体 <p>出演:東野祥子(Dance Company BABY-Q主宰/振付家・ダンサー)</p> <p>高嶋晋一(美術作家)+イエレナ・グラスマン(シアターアーティスト/Science Project芸術監督)</p> —	
	日本のクラシック映画からインスパイアされたパフォーマンス。映像という編集され、寸断された身体との共存。	

20:00 <p>¥1,500</p>	リレーコレオグラフ <p>ダンサー:平山素子(ダンサー・振付家)</p> <p>振付:安藤朋子(演劇)、井手茂太(振付家・ダンサー/イデビアン・クルー主宰)</p> <p>室伏鴻(ダンサー・振付家)、和栗由紀夫(舞踏家)</p> —	
	4名のアーティストが一人のダンサーをそれぞれ振り付ける。それらがのりうつった一つの身体から振付とは何かを探る実験的パフォーマンス。	